

令和5年3月吉日

関係者各位

社会福祉法人こうほうえん
理事長 廣江 晃

第27回こうほうえん研究発表会開催のご案内

謹啓 春分の候 皆さまにおかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、こうほうえんでは例年、一年間の活動成果を発表する場として標題研修会を開催しております。会場発表ならびにオンラインにて配信しますので、お気軽にご参加またはご視聴くださいますようご案内いたします。

謹白

記

【研修会名】 第27回こうほうえん研究発表会

【開催日時】 2023年3月25日（土）10時00分～17時15分

10:00～10:20 法人関連式典

10:20～11:25 開会式

【会場】 米子コンベンションセンター 小ホール、国際会議室、第7会議室

〒683-0043 鳥取県米子市末広町294

オンライン併用

【添付】 資料1 こうほうえん研究発表会ご参加に係る注意点について

資料2 第27回こうほうえん研究発表会スケジュール

以上

ご不明な点は以下までお問合せ願います。

お問合せ先	社会福祉法人こうほうえん 研修人財部 担当 藪本（やぶもと）、高須（たかす） TEL 0859-24-3111 FAL : 0859-24-3113 E-mail welfare@kohoen.jp
-------	--

こうほうえん研究発表会ご参加に係る注意点について

1 当日の受付について（会場参加の方）：

米子コンベンションセンター 小ホール、国際会議室前に受付用ブースを設けております。受け付けにてお名前等必要事項をご記入のうえ、ご参加願います。なお、参加者が安心して発表会に参加できるよう、発熱、咳等の症状がある方は会場でのご参加はお控え願います。

2 オンライン参加方法について：

オンラインでの視聴をご希望される場合は、以下 ZOOM 情報、注意事項をご参照のうえご視聴ください。

会場	ZOOM 情報
小ホール	https://us02web.zoom.us/j/81543991330?pwd=NFZiTjBRZ0hCd1ZaZlp4dFJhQTRWQT09 ミーティング ID：815 4399 1330 パスコード：676702
国際会議室	https://us02web.zoom.us/j/85077473543?pwd=dUs3Y0Q3enBJamR3K3l4cFgrMkZTZz09 ミーティング ID：850 7747 3543 パスコード：616869
第 7 会議室	https://us02web.zoom.us/j/82220151461?pwd=cVnWnUtzTGpaSXFNeK16VnZrK3huZz09 ミーティング ID：822 2015 1461 パスコード：295650
オンライン抄録	https://drive.google.com/file/d/1FxyZQ4sVd10xjdySw-mo9JPkjlN_Sp0d/view?usp=sharing 
注意事項	① 接続の際はマイクをオフにしてご参加ください。 ② 名前表示を「組織名 名前」に変更してください。表示が無い場合、ホスト側から確認、切断させていただく可能性があります。 ③ 質疑応答は座長の案内に従って行ってください。ご質問の際はマイク、カメラをオンにしてご質問願います。

3 投票へのご協力について

職員への励みとなりますので、良い発表に対して投票をお願いします。最も得票の多かった発表者には賞が与えられます。

発表「いいね!♡」投票		
【投票期間】2023年3月25日(土) 11:40~17:00		
小ホール	国際会議室	第 7 会議室
https://forms.gle/JuhZLnvoVvUaZp4L8	https://forms.gle/7WBdvhetaC2eaQN17	https://forms.gle/fyqqq6QppgHVaqMj7
		

第27回こうほうえん法人研究発表会スケジュール

時間	内容					
9:00-9:45	【入社式】国際会議室					
9:45-10:00	検温・換気・会場準備等					
10:00-10:20	【法人関連式典】小ホール (挨拶) 社会福祉法人こうほうえん 会長 廣江研 (表彰) 永年勤続者、功労者 (発表) 2023年度 スローガン					
10:20-11:25	【法人研究発表会 開会式】小ホール (挨拶) 社会福祉法人こうほうえん 理事長 廣江晃 (発表) 令和5年度 木下準四郎・遠藤泰治基金 (報告) 令和4年度 木下準四郎・遠藤泰治基金 (発表) 第6次中期目標成果発表(健康経営、業務棚卸、フレイル予防) (発表) メンタルヘルスの取り組み(養和病院)					
11:25-11:40	検温・換気・会場準備等(15分)					
一般発表	小ホール(ch1)		国際会議場(ch2)		第7会議室(ch3)	
11:40-12:45 (65分)	S-1群 関わり・認知症 座長 池口 宏明		K-1群 人財育成・組織強化 座長 小林 美樹		7-1群 リハビリ 座長 井上 広之	
	1 池淵 美香	さかい	1 南部 華織・小林 彩花	南東京	1 増原 俊幸	錦海
	2 森崎 健一	さかい	②平見 良輔	西東京	2 野坂 進之介	錦海
	3 岡野 有希子	いなば	3 大野彩花	なんぶ	3 松本 昌樹	錦海
	4 藤原 明日香	なんぶ	4 佃 幸恵	なんぶ	4 板持 洸宣	錦海
	5 小林 絢	いなば	5 石上聖也	さかい	5 盛山 亮太	錦海
	⑥阪口 卓実	成光苑	6 濱田 政一	さかい	⑥森田 愛	いなば
12:45-13:35	昼食(50分)					
13:35-14:40 (65分)	S-2群 保育 座長 木村 志穂		K-2群 リハビリ・レク 座長 永島 敬子		7-2群 ケア① 座長 渡部 和義	
	1 松本 来	よなご	1 佐々 智彦	さかい	1 清水 俊文	南東京
	②居島郁絵・阿多利里美	南東京	2 岸本 美奈	いなば	②岡崎 忍	南東京
	3 横山 晃子	北東京	3 澤田 夏紀	錦海	3 足立 朋哉	なんぶ
	4 菊池 佐季子	北東京	4 谷岡 雅仁	いなば	④幸村 優美	北東京
	⑤大瀧 妃香・横山 あみ	西東京	5 岩垣 佳克	さかい	5 小林 敬一	いなば
6 中村 琴乃	北東京	6 安藤 志津子	なんぶ	6 向井 悠貴	いなば	
14:40-14:55	検温・換気・会場準備等(15分)					
14:55-15:50 (55分)	S-3群 ケア② 座長 大森 恵子		K-3群 在宅支援・地域連携① 座長 國本 英之		7-3群 業務改善・組織強化 座長 射場 由希	
	1 藤岡麻美	よなご	1 竹田 涼	いなば	1 岡 弘樹	北東京
	2 石橋幸子	なんぶ	2 風呂本 美紀代	よなご	2 瀧内 瑞穂	西東京
	3 上村 順一	錦海	3 三澤 雅史	なんぶ	3 本庄 研	よなご
	4 岩田 悦子	南東京	4 大濱 伸也	よなご	4 萩原 元気	いなば
	5 木村友祐	よなご	5 渡辺 淳子	いなば	5 杉原 健太郎	錦海
15:50-16:00	検温・換気・会場準備等(10分)					
16:00-16:55 (55分)	S-4群 在宅支援・地域連携② 座長 門永 愛史		K-4群 ケア改善・ICT 座長 池田 真大		7-4群 リスクマネジメント 座長 田中 絵美	
	1 崎浜 秀賀	錦海	①田島 成人	西東京	1 岩田桂子	よなご
	2 萩本 慎也	錦海	2 笹崎 梨民	北東京	2 阿部 有希	さかい
	3 福田 由美子	錦海	3 伊藤 耕平	北東京	3 甲斐 肇	よなご
	4 馬庭 里奈	錦海	4 吉本 祥太	よなご	4 本司 雅貴	南東京
	5 木嶋 恵美	錦海				
16:55-17:05	検温・換気・会場準備等(10分)					
17:05-17:15	【閉会式】小ホール (挨拶) 社会福祉法人こうほうえん 理事長 廣江晃					

第27回こうほうえん法人研究発表会 発表要旨

木下遠藤基金(1題)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
木下遠藤基金	法人内における車椅子購入機種の一掃と廃棄する車椅子の回収、リユース、リサイクル活動	松原 岳洋	錦海リハビリテーション病院	一定の割合で現場にて例年使用不能となり廃棄されてきた車椅子に着目し、2021年より鳥取県内の各エリアから廃棄する車椅子を回収・集約しリユース活動を行っている。同時に中・長期先を見据え、従来エリア間で異なる新規車椅子機種を数種に統合する取り組みを行った。一連の取り組みを紹介する。

S-1群 関わり・認知症(6題) 座長 池口 宏明(よなご)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 S-1-1	介護職員の怒りの感情とそのマネジメントに関する一考察	池淵 美香	介護老人福祉施設新さかい幸福苑	不適切なケアや虐待の一要因となる介護職員の怒りの感情についてスポットを当て、そのマネジメントの在り方とともに、検証・考察を行った。
2 S-1-2	コーチングの傾聴スキルを活かしたご利用者との関わりについての実践報告	森崎 健一	デイハウスあがりみち	2021年より2年間一般財団法人少林寺学道連盟主催のコーチング指導者養成講座を受講しコーチングスキルを習得した。その中でも核となるスキルである傾聴スキルをデイハウスあがりみちでのご利用者との関わりに活用してみた。その具体的な内容の紹介とご利用者の反応、私自身の心境、今後の可能性と課題について報告する。
3 S-1-3	認知症予防を目的としたケアの質向上への取り組み ～事業所の特性を踏まえた利用者への気づきの視点～	岡野 有希子	にしまち幸福苑通所リハビリテーション	にしまち幸福苑短時間通所リハビリテーションは、要支援者の割合が高い事業所である。一方で、全利用者の3割が認知症高齢者の日常生活自立度Ⅰ以上に該当している。認知症予防を目的とした取り組みとしてBPSDへの気づきの視点を持つための研修会等を実施したことで、職員意識・行動変容に繋がったため報告する。
4 S-1-4	「認知症を持つ利用者の在宅生活を支える為には」～小規模多機能に求められる支援、S氏との関わりを通して～	藤原 明日香	デイハウスながえ	「これからは変わらず在宅生活を送りたい。」認知症を持ちながらも強く願うS氏。しかし病状が進行する中、生活にあらゆる支障や困難が生じ始める。小規模多機能の利用を開始し、職員とかわかりを持つことで状態の変化が現れた。そして現在も在宅生活継続中。本人と家族が求める支援の取り組みと成果を報告する。
5 S-1-5	周辺症状改善への取り組み ～穏やかな日々をもう一度～	小林 絢	グループホームはまさか	感染症の長期化で社会や家族との関わりが減っている中、入居者の活動量も低下し認知機能低下などの影響がみられている。Y氏も不安・不穏・被害感などの周辺症状が顕著にみられるようになった。アセスメントを行い周辺症状の要因を探り、穏やかな暮らしを取り戻すためのケア改善に取り組んだ事例を報告する。
6 S-1-6	選択できるアクティビティにおける認知症へのアプローチ	阪口卓実	社会福祉法人成光苑 高槻けやきの郷 認知症対応型通所介護	本研究は選択できる環境を用意しご利用者が「やりたいこと」が選べるケアを実践することで、BPSDの軽減はもちろんQOLの向上につながるという仮説を基に取り組み、ご利用者の在宅生活の継続を目的とした研究報告である。

S-2群 保育(6題) 座長 木村 志穂(保育)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 S-2-1	子どもの思いによりそう保育～不適切保育とは何か分析と検討から見えてきたもの～	松本 来	キッズタウン第2保育園	昨年度より不適切保育ゼロ宣言を日々唱和しているが、不適切保育とは何か、何が不適切となるのか、個々の価値観の違いや実務年数の差から指摘し合えていない現状があった。不適切保育についてクラス担任にアンケートを行い、事例を挙げ検討することで、保育を行う際の職員の意識の変化、見えてきた今後の課題を報告する。
2 S-2-2	保育園における園児のウイルス性胃腸炎 ～感染を広げないために～	岩崎紗永子・居島郁絵・阿多利里美	キッズタウンにしおおい	秋から冬にかけて流行するウイルス性胃腸炎。2022年1月に大流行をした当園では、園児及び職員が48名(下痢嘔吐症状含む)罹患した。大流行を招いた原因が嘔吐下痢処理技法や環境設定等に問題があるのではないかと考え、保健衛生リーダーと看護師が協同し感染対策の見直しを図り、保育の技術・知識の向上に繋がった。
3 S-2-3	究極の子育て支援”病児病後児保育”～ひとりでも多くの親を支えるために～	横山 晃子	キッズタウン東十条保育園	子育て環境の変化に伴って保育に求められるニーズも多様化する中、働く保護者にとって重要な役割を果たす「病児・病後児保育」。ニーズは年々増加しているにも関わらず、支援が行き渡っていない現状を調査し、その存在意義を考察、報告する。
4 S-2-4	選ばれる保育園を目指して～新たなファンを増やす取り組み～	菊池 佐季子	キッズタウンうきま保育園	近年少子化が加速し、一時期言われていた待機児問題も解消されました。今までは待つていれば新入園児が入ってきましたが、今後は益々“この園に入りたい”と選んでもらう時代になります。地域に向けたイベントの紹介や、身近な存在の保育園を目指して新たなファンを増やすための取り組みを報告します。
5 S-2-5	地域に開かれた保育とは —夏祭りをとおして—	大瀧 妃香・横山 あみ	キッズタウンむかいほら保育園	当園で行う夏祭りに地域の子どもたちを招き、地域に開かれた保育について研究した。地域の子どもたちと在園児が関わり、さらには高齢者にはお神輿を見てもらうことで、在園児の地域のつながりに対する興味や関心が深まり学びが広がることや、地域の子育て家庭への支援、関わりが豊かになった。
6 S-2-6	保育とICT化のミライ	中村 琴乃	岩淵保育園	保育ICT化が急速に進む近年、岩淵保育園でも今年度から保育アプリ「コードモン」を本格的に導入開始しました。今回のICT化は保護者や職員に対してどのような変化をもたらしたのか？はたしてICT化はメリットばかりなのか？保護者と職員向けにアンケートを実施。その結果をもとに気付かされた事をここに報告します。

S-3群 ケア②(5題) 座長 大森 恵子(錦海病院)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 S-3-1	食形態と看取りとの関連性についての一考察	藤岡麻美	介護老人福祉施設さかい幸福苑	昨年のよなご特養の「身体微候からみえる看取り移行期への実態を探る」の研究より、今回は、当苑での老衰による退居者の入居時からの食事形態の推移調査を行った。結果、死亡の平均約2か月前にゼリー食に形態が変更になっていた。このことも身体的微候に加え、看取り移行時期の目安の一助となることが示唆された。
2 S-3-2	ご利用者・ご家族の思いに寄り添う在宅看取り～コロナ禍での在宅看取り～	石橋幸子	地域密着型介護老人福祉施設なんぶ幸福苑	〇様ご家族は入居当初よりご自宅での看取りを希望しておられた。一緒に入居されているご主人やご家族の想いに寄り添いながら、コロナ禍での在宅看取りに多職種で取り組んだ事例を報告する。
3 S-3-3	主介護者の介護負担感が低く満足度が高かった当院退院後在宅で看取りを行った症例	上村 順一	錦海リハビリテーション病院	当院回復期リハビリ棟退院後のがん終末期の利用者に対し、訪問理学療法で週1回、およそ1か月の介入を行った。訪問看護、訪問介護、訪問入浴等各サービスと協働し、介護者の満足度が高い状態で終了することが出来た。終末期の在宅ケアでは、サービスの頻度と家族教育の充実と配慮して介入を行っていくことが重要である。
4 S-3-4	足のむくみ改善への取り組みが「その人らしさ」に繋がった	岩田 悦子	グループホーム新砂	Aさんは2022年4月に入居後、ソファやテーブル席に座って静かに過ごすことが多く足のむくみが目立ちはじめた。足のむくみ改善を目指し、生活や行動の中にある要因を探り、チームで取り組んだ。その結果、入居者に起こった変化を報告する。
5 S-3-5	コロナ禍だからこそできるご家族支援を考える	木村友祐	介護老人福祉施設よなご幸福苑	新型コロナウイルスによる面会制限が続くなかで、コロナ禍だからこそできるご家族支援について考えた。そこでご利用者のご家族に対し、施設での生活について気になることや要望などを知るために2022年6月にアンケートを実施した。その結果を受け、ユニットで取り組んだ内容について報告する。

S-4群 在宅支援・地域連携②(5題) 座長 門永 愛史(さかい)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 S-4-1	訪問リハビリテーション利用者において地域代替サービスを活用し、小規模多機能居宅介護を終了した一例	崎浜 秀賀	錦海リハビリテーション病院	社会参加を目的に訪問リハビリテーションを導入している利用者を担当した。歩行能力の著しい変化はなかったが生活空間の広がりが増えられた。生活空間の広がりに伴い介護保険外の地域資源サービスを代替として活用することで小規模多機能型居宅介護を終了することができたため考察を踏まえて報告する。
2 S-4-2	当院訪問リハビリテーションに従事した際に経験した他職種とのトラブル	萩本 慎也	錦海リハビリテーション病院	当院訪問リハに従事していた際に、担当ケアマネに家族の希望を伝え、福祉用具導入の検討を依頼したが、拒否された。地域包括ケアシステム体制の中でPTは常に利用者QOL向上を目指した自立支援のリハマネジメントを実践しなければならない。他事業所の他職種への対応について考察し、今後の業務に活かすこととした。
3 S-4-3	急性期病院と回復期病院で統一した指導を行うための、脳卒中再発予防パンフレットの作成	福田 由美子	錦海リハビリテーション病院	当院は脳卒中患者の占める割合が多く、再発予防のためにパンフレットを用いて生活指導を実施していた。急性期病院でも指導を受ける場合があるが、内容の重複など有効な指導が来ているか疑問に感じた。急性期から回復期まで切れ目ない指導ができないか連携会議を開催し、パンフレットを作成したので報告する。
4 S-4-4	在宅生活を見据えた介入の重要性～追跡調査からの一考察～	馬庭 里奈	錦海リハビリテーション病院	今回右大腿骨転子部骨折の症例を担当した。自宅退院するにあたって排泄の自立が必要だったが、自宅トイレでは移動に課題があった。そこでポータブルトイレを設置し、自立に向けて環境調整・訓練を行った。その後退院後の生活について追跡調査を行い、在宅生活を見据えた介入の重要性を感じたため経過を踏まえ報告する。
5 S-4-5	錦海リハビリテーション病院での訪問栄養指導の取り組み～3年間を振り返って～	木嶋 恵美	錦海リハビリテーション病院	錦海リハビリテーション病院では、令和元年5月から、退院患者の栄養支援を継続して行うために、管理栄養士が2名体制となった。当院退院患者や訪問リハビリ利用者などへ、居宅療養管理指導での、訪問栄養指導に取り組んできた。令和4年5月までの3年間の取り組みと課題について報告する。

K-1群 人材育成・組織強化(6題) 座長 小林 美樹(保育)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 K-1-1	子どもと取り組むSDGS!	南部 華織・小林 彩花	新砂保育園	「SDGS17の取り組み」の中で、子どもたちが実践しやすいテーマを絞り、それらを意識した保育を行ったり、幼児クラスを中心に更に学びを深めていけるよう、テーマに即した劇を行ってきた。未来を生きる子どもたちが安心して暮らせる地球のために「何ができるか」を一緒に考えてきた過程を報告する。
2 K-1-2	「働きやすい職場を目指して」	平良 良輔	キッズタウン下落合保育園	コロナ等感染症対策の為に徹底したクラス別分離保育と職員の黙食を行った結果、保育士間のコミュニケーション不足が起こり、ぎこちない雰囲気が生じた。そのことをきっかけに、保育士たちが働きやすい、離職しづらい職場を作るためにはどうすれば良いかを研究のテーマとした。
3 K-1-3	働きやすい環境を作るために～エルダー制度を取り組む大切さ～	大野彩花	認定こども園キッズタウンさくら	誰もが入社1年目は不安感や困り感を感じている。誰に相談したら良いか、何度も同じことを聞いて良いかなどそれぞれにある。エルダー制度を通して新人職員の悩み、不安、思いを受け止め、安心して仕事が出来、早く職場に馴染めるような環境作りを行う。今回自身の新人、エルダーを経験した2年間の取り組みを報告する。
4 K-1-4	特定技能職員へのエルダー制度～言葉の壁を乗り越えて～	佃 幸恵	介護老人保健施設なんぶ幸朋苑	なんぶ老健では、今年度初めてフィリピン特定技能職員2名の配属があった。日々、介護現場で働く中で職場でのルール、専門用語や介護技術を伝える難しさ、個々の理解度の確認において言葉の壁を強く感じた。多くの困難な状況下において、独自の書式作成や指導方法を検討し取り組んできた事を報告する。
5 K-1-5	外国人技能実習生受け入れによるチームの変化と課題	石上聖也	介護老人福祉施設新さかい幸朋苑	令和3年1月、新さかい特養では初めてとなる技能実習生2名をフィリピンから迎え入れた。言語・文化の違いを乗り越えながら、日々の業務指導やコミュニケーションを通して成長してきた技能実習生とチーム内の変化、今後の課題について報告する。
6 K-1-6	働きやすい職場づくりを目指して～産後パパ育休を活用して気付いたこと～	濱田 政一	介護老人福祉施設さかい幸朋苑	2022年2月、妻が第一子が授かったことが分かりました。父親である私も育児に参加したいとの気持ちから、制度利用について会社と相談し産後パパ育休を取得することができました。今回、制度を利用しての感想や「働きやすい職場づくり」に繋がる気づきがあったので報告します。

K-2群 リハビリ・レク(6題) 座長 永島 敬子(錦海病院)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 K-2-1	通所リハビリテーション利用者における身体機能、口腔機能、栄養状態との関連	佐々 智彦	介護老人保健施設さかい幸朋苑	フレイル予防として運動、口腔、栄養でのアプローチが重要であるといわれている。通所リハビリテーション利用者の各機能、状況を調査した。結果、口腔・嚥下機能と身体機能、栄養面での関連性がみられた事から当施設において各専門職が一体となりフレイル予防に寄与出来る可能性が示唆された為報告する。
2 K-2-2	コロナ禍におけるフレイル予防の取り組み～嚥下体操、生活リハビリの評価～	岸本 美奈	介護老人保健施設いなば幸朋苑	新型コロナウイルス感染症の流行により、約1か月間居室対応を余儀なくされた。その間、利用者フレイルの症状がみられ、食事摂取量の低下と認知機能の低下が顕著に表れた。嚥下体操と生活リハビリを行った結果、食事量と認知機能に変化が見られたので経過と結果を報告する。
3 K-2-3	経験年数の違いが及ぼす患者のモチベーションの変化についての一考察	澤田 夏紀	錦海リハビリテーション病院	入職して1年未満の新人セラピストが担当であることに不安を訴えられ、担当変更に至ったケースを経験した。そこで、経験年数の違いが及ぼす患者への心理的影響について疑問を感じたため、患者への聞き取りを通して考察し、以下に報告する。
4 K-2-4	他者交流とリハビリ実施を通じた、身体機能と生活意欲の向上へ繋がった事例～本人自ら目標を掲げ、実現に向けての取り組み～	谷岡 雅仁	新いなば幸朋苑特定施設入居者生活介護	残存機能に対する不安と身体機能の向上を望むA氏に対し、身体機能・生活意欲・QOLの向上に取り組むことを考えた。物事に対して消極的だったA氏が他者との交流やリハビリを通して、情緒面の改善・身体面の向上に繋がった事例を報告する。
5 K-2-5	その人らしい生活への支援～個別ケアの充実を通して～	岩垣 佳克	小規模多機能型居宅介護 デイハウスわたり	自宅での転倒により腰椎圧迫骨折で入院してから、退院後にデイハウスの利用となった。本人の意欲なく、ADLもなかなか改善せず、活気がなかった方が、日々の生活で活気を取り戻して頂く為、個別レクの充実を図り、生活の質の向上を目指した取り組みを報告する。
6 K-2-6	野菜作りで生き生きと過ごす～活気・生気・気分は上々～	安藤 志津子	特定施設入居者生活介護なんぶ幸朋苑	新型コロナウイルス感染症が世界で流行し3年が経過した。このコロナ禍で日々の過ごし方が一変し、家族との面会が出来ない、行きたいところに行けないなど楽しむ機会が少なくなった。そこで利用者にも少しでも楽しい日々を送ってもらうように野菜作りを開始した。野菜作りを通してご利用者の変化について報告する。

K-3群 在宅支援・地域連携①(5題) 座長 國本 英之(よなご)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 K-3-1	一人暮らしを支える～その人らしい生活とは何か～	竹田 涼	小規模多機能型居宅介護デイハラス じゅんぶう	小規模多機能型居宅介護事業所デイハラスじゅんぶうの取り組み、「自宅で暮らし続けること」を重点に、独居高齢者の生活における様々な問題点に対して、家族と連携を図りながら、解決に向けて必要なサービスを調整している。その結果、本人との信頼関係を構築し、在宅生活が継続できた事例を報告する。
2 K-3-2	安らぎの場所でいつまでも自分らしく生活したい～切れ目のないサービス提供～	風呂本美紀代	特定施設入所者生活介護アザレア コートこうほうえん	近年サービス付き高齢者向け住宅(自立型)の入居者は健康面の心配等から、生活相談が増えてきており、併設されている特定施設入所者生活介護へのサービス変更希望者が多くなってきた。介護が必要になっても同じ場所で安心して介護が受けられ、慣れ親しんだ環境・住宅で生活できる自施設の強みと課題を報告する。
3 K-3-3	永江地区のフレイル予防～フレッシュアップ！ 永江スクール4年間の軌跡～	三澤 雅史	訪問看護ステーションなんぶ幸福苑	永江地区在住のフレイル、プレフレイル判定を受けた高齢者に対して、令和元年10月から令和四年12月まで、フレイル対策モデル事業「フレッシュアップ！永江スクール」を開催し、状態悪化の予防や改善を図った。4年間の活動内容とスクールで実施した測定結果、永江地区と同市内他地区との比較について考察したので報告する。
4 K-3-4	地域での介護予防に向けて ～地域包括支援 センターとしての効果的な取り組みとは～	大濱伸也	米子市住吉・加茂包括地域包括支援 センター	地域包括支援センターとして、地域での体操教室の開催やサロン活動支援を通じ、介護予防に向けた取り組みを日頃から行っているところである。しかしながら、介護サービスを利用される方は増える一方で、介護予防への取り組みが奏功していないと考え、地域の実態を調査し、今後の活動に向けた検討を行った。
5 K-3-5	地域の現状からみた特性と今後の課題	渡辺 淳子	鳥取北地域包括支援センター	鳥取北地域包括支援センターは鳥取市の委託事業で、令和2年10月に北中、中ノ郷中学校区2つのエリアを担当区域として、鳥取市北イサービスセンター内に設置された。住み慣れた地域でこれからも安心して暮らしていくために、地域の特性と果たすべき役割や取り組み、見えてきた今後の課題を報告する。

K-4群 ケア改善・ICT(4題) 座長 池田 真大(なんぶ)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 K-4-1	“眠リスクン”で変わる、施設生活のQOL	田島 成人	特別養護老人ホーム上石神井幸苑	上石神井幸苑では、ご利用者のQOL向上、及び職員の負担軽減を目指し、令和3年度より“眠リスクン”を導入致しました。睡眠記録を基に、ご利用者の状態を今まで以上に把握し、各職員と問題提起、支援の見直しを行う事で、より良い生活を過ごして頂く事を始め、職員の憶測の不安を減らし、介護負担の軽減にも繋がりました。
2 K-4-2	ADLの急激な低下・向上が見られたケース～ 眠リスクンの活用に向けて～	笹崎 梨民	介護老人福祉施設うきま幸福苑	認知面や体力面等の複合的な要因から、ADLが急激に低下しても、生活リズムや生活環境を見直した結果、ADLの向上に至ったケースがある。そのケースを安定期・悪化期・低迷期・向上期・再安定期と分け、身体的変化と睡眠状況の変化を比較し、睡眠とケアの繋がりを考察した内容を報告する。
3 K-4-3	気づきを生み、増やし、共有していくために必要なこと	伊藤 耕平	介護老人福祉施設うきま幸福苑	今回、令和4年度のなごみ・やすらぎユニットの取り組み目標、「環境の整備」と「ご利用者とのコミュニケーション」の工夫をポイントに、運用中のMIMOTEアプリ内「気づき画面」を利用し記録を累積した。そこから得られた結果を考察し、実践研究として報告する。
4 K-4-4	食事がすまなくなった利用者の支援について、 気づきを通して見えたこと	吉本祥太	介護老人福祉施設よなご幸福苑	令和4年1月頃から食事が進まなくなってきたA氏。状態把握システム(MIMOTE)で介護士の気づきを振り返ると、A氏の食事に関する気づきが多く、介護記録にも同様の記録が増えていた事がわかった。気づきデータを活用し、食事場面における介護士の関わり方や支援方法を検討しケアに反映した。その経過を報告する。

7-1群 リハビリ(6題) 座長 井上 広之(いなば)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 7-1-1	通所リハビリテーションにおける筋力増強を目的としたパワーリハビリテーションの負荷設定の見直しによるご利用者の運動機能の変化	増原 俊幸	錦海リハビリテーション病院	通所リハビリテーションきんかいにて、筋力増強を目的としてパワーリハビリテーションを行う場合は負荷を増やす見直しを行った。見直しを行った利用者群(27例)は従来通りの軽負荷で実施している利用者群(27例)と比較して、握力や歩行速度などの運動機能の改善率が高い傾向が認められた。
2 7-1-2	脳卒中を有する患者におけるデュアルタスクによる座位ステッピング中の前頭前野活性化	野坂 進之介	錦海リハビリテーション病院	本研究の目的は、デュアルタスクによる座位ステッピング中の前頭前野活性化を検討することであった。その結果、認知課題のみ、座位ステッピングのみと比較し、デュアルタスクによる座位ステッピングは前頭前野が有意に活性化した。本研究の結果は歩行が困難な患者におけるエクササイズの一助になると考える。
3 7-1-3	下肢荷重率の向上に伴い歩行様式に変化を認めた脳卒中片麻痺を呈した一症例	松本 昌樹	錦海リハビリテーション病院	右被殻出血により脳卒中片麻痺を呈して当院へ入院した症例に対し、麻痺側下肢荷重率に着目し理学療法介入を行った結果、歩行様式の変化を認めた。荷重練習により麻痺側下肢荷重率が向上した結果、2動作歩行が可能となったと考えられた。
4 7-1-4	脳血管疾患を持つ症例に対して入院早期より階段昇降練習を取り入れて屋外歩行の獲得を図った経験	板持 洗宣	錦海リハビリテーション病院	運動麻痺を主症状とする脳血管疾患を持つ患者を担当した。症例は後方への転倒リスクや歩行速度の低下を認めていた。自宅内の歩行や自宅周囲の屋外歩行が可能となることを目標に、入院2日目より階段昇降練習を取り入れて介入を進めた。病棟内の歩行は自立し、短距離の屋外歩行も可能となり、入院11週にて自宅退院に至った。
5 7-1-5	心原性脳塞栓症により摂食嚥下障害を呈した症例について～お楽しみレベルでの経口摂取に向けた取り組み～	盛山 亮太	錦海リハビリテーション病院	今回左MCA領域の広範な梗塞により、摂食・嚥下障害を呈した症例に関わる機会を得た。嚥下面へのアプローチにおいて、意欲の低下や耐久性の低下もあり積極的な訓練実施ができず難渋した部分が多かった。まずはお楽しみレベルの経口摂取を目標に、様々なアプローチを訓練にて検討・実践した。以下に詳細を報告する。
6 7-1-6	地域と連携した子どもの発達支援の取り組み～事業協力を通して～	森田 愛	ことばの発達支援センターにしまち幸福苑	当事業所は、地域貢献として①ことばの無料相談、②鳥取市など地域の事業への参加協力を行っている。令和4年度は、鳥取市の乳幼児健診後の親子教室、鳥取市のことばの相談会、療育施設での言語指導、特別支援学校での教育相談など5つの事業に携わっている。事業を通して地域の課題および事業所の役割について考察する。

7-2群 ケア①(6題) 座長 渡部 和義(さかい)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 7-2-1	「ケアを困難にさせるもの」の要因を探る	清水 俊文	ケアホーム西大井こうほうえん	ケアホーム西大井では、口腔ケアプランの実施率に問題を抱えていた。そこでケアに関わる職員に困難度アンケートを実施し実施率と比較したところ、ケアに入るタイミングが合わずケアを受け入れてもらえないことが主要因であると判明した。本研究では、その人にあった関わり方を見直すことで得られた実施率の変化を報告する。
2 7-2-2	当施設介護職員が感じる口腔ケアに関する介護負担感 「口腔関連介護負担感尺度」を用いた調査	岡崎 忍	ケアホーム西大井こうほうえん	当施設では口腔ケア支援の際に介護職員が感じる負担感を、令和3年と4年に「口腔関連介護負担感尺度」を用いて調査した。個別口腔ケアプランに基づく支援や、当施設が独自に設置した口腔ケア支援技術認定制度に伴う研修など、求められることの多い支援に感じる負担感を客観的に把握することができたので報告する。
3 7-2-3	介護老人保健施設における口腔ケア統一に向けた取り組み	足立 朋哉	介護老人保健施設なんぶ幸朋苑	介護老人保健施設なんぶ幸朋苑では口腔ケアの統一を目標に3年計画で基礎的な口腔ケア、実践的な口腔ケア、継続した口腔ケアの3つの取り組みを行った。その結果、職員の意識の変化や口腔環境の改善、肺炎での入院者数の減少などの結果が得られた。その取り組み内容について報告する。
4 7-2-4	手すり付きターンテーブルの検証～双方にやさしいトイレ支援～	幸村 優美	介護老人福祉施設うきま幸朋苑	「立ち上がり・立位保持が介助で出来るが、方向転換時の足部の踏み替えが困難」な方に「たちあがびざつちC回転式継手すり(矢崎工業株式会社)」を使用し検証した。うきま特養利用者の23%に適合し、立位安定性向上・前傾姿勢での介助時間が短縮した。利用者職員双方に負担軽減が得られた取り組みを報告する。
5 7-2-5	介護する側、される側に優しいノーリフティング～当たり前になるまでの取り組み～	小林 敬一	介護老人福祉施設新しいなば幸朋苑	2021年11月、ノーリフティング実施率13.6%と推進が進んでいない状況であったが、毎月、利用者個別のリフト使用目標を立案し、「環境設定」「使用と効果確認」「課題の抽出と改善」「フィードバック」を行い、計画的に推進を図った結果、本年度同月では92.9%と高い実施率となった。その取り組み内容と職員の意識変容を報告する
6 7-2-6	新たな車椅子点検表を作成・活用した結果と今後の課題について	向井 悠貴	介護老人保健施設いなば幸朋苑	安全、安心な車椅子を利用者に提供することを目的に、3事業所(通所介護、通所リハビリテーション、老人保健施設)で理学療法士主導の点検を行った。点検後、特定箇所の故障や整備不良を認めた。点検に加え確認ポイントを明記した車椅子点検表を新たに作成し、3事業所で活用した結果と今後の課題について考察した。

7-3群 業務改善・組織強化 座長 射場 由希(なんぶ)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 7-3-1	夜勤業務における改善に向けての取り組み～眠りスキャン導入による成果と課題～	岡 弘樹	介護老人福祉施設うきま幸朋苑	うきま幸朋苑特養5階のユニットでは、令和4年6月に入居者全員に眠りスキャンの設置を行った。導入にあたり夜間業務が改善出来ないかユニット会で話し合い、夜間の巡回、巡視は眠りスキャンで可能ではないかと言う意見が挙がった。巡回、巡視を眠りスキャンで可能であるかを検証し業務の統一化を図るまでを報告致す。
2 7-3-2	割当業務の分担化～担当制から夜勤者へ分担化したことによる効果～	瀧内 瑞穂	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所むかいほら	本年度より、訪問を職員に割り当てる業務を、担当制から夜勤業務へと変更しました。変更した事により、各職員の意識に変化があり、予定外の事態にも迅速な対応が可能となりました。支援について見直す機会となり、介護の質の向上にも繋がりました。業務量の偏りが軽減され、不平等さを軽減することができました。
3 7-3-3	エンパワメント 3つの鍵 ～小規模単独事業所運営のあゆみ～	本庄 研	デイハウスよねほら	小規模単独事業所での6年間のエンパワメント(自立した社員が自らの力で仕事をすすめていける環境を作ろうとする)の取り組みについて成果、課題を含めた評価について報告します。仕事のやりがい、活き活きとした職場づくりをあきらめかけていませんか？私たちともう一度一緒に考えてみませんか。
4 7-3-4	いなばエリア通所介護事業再編～価値あるサービスを目指した取り組み～	萩原 元氣	デイライフゆうゆう(いなばエリア相談運搬室)	いなばエリア通所介護事業は、半径2km圏内と近接した場所4か所が営業していた。これまでも事業所毎の特色強化を図っていたが、利用者の取り合いになる場面も多く営業でも苦戦していた。本当に価値あるサービスを提供し選ばれるため、エリアで一体的な通所事業の運用を目指した取り組みの成果と課題を報告する。
5 7-3-5	通所リハビリテーション利用者の休みに関する分析 -利用者年齢層別にみた休みの傾向について-	杉原 健太郎	錦海リハビリテーション病院	通所リハビリテーションきんかいの利用者数の推移をみると、2021年度上半期と比べ、2022年度上半期の休みが増えた。休みの対称は、閉じこもり予防を目指す上で意義深いと思われる。本研究では、利用者を年齢層毎に区分比較し、休みの理由について分析を試みた。結果を基に、今後の対策と展望について考察し、報告する。

7-4群 リスクマネジメント(4題) 座長 田中 絵美(いなば)

席	発表テーマ	発表者	所属	要旨
1 7-4-1	「入浴での感染対策、質の向上を目指して」～利用者の気持ちに寄り添い今できる事～	岩田 桂子	デイサービスセンターアザレアコート	本研究では、入浴場における感染対策は甘い点があったと考え、入浴時の感染対策の見直しの必要性、また利用者の気持ち考えを考慮するため感染前と後での入浴における利用者への意識調査アンケートを実施し取り組んだ過程と結果、今後の課題を報告する。
2 7-4-2	手指衛生における可視化できない手の汚染に着目した介護施設職員の1日	阿部 有希	介護老人保健施設さかい幸朋苑	新型コロナウイルス感染者の国内初確認から3年が経過した。感染予防の一つとして手指衛生が挙げられるが、実際によく汚染しやすい手については、手洗いであっても可視化できない汚染が存在している可能性がある。見えない事による感染リスクが、実際の1日の介護業務の中でどれくらいあるのか、調べて報告する。
3 7-4-3	災害時における環境整備と実施	甲斐 肇	グループホームかわさき	本研究では、年2回の防災避難の実施について毎回課題を残している現状がある。自然災害も危惧される中、災害時における環境整備と取り組みについて見直しの必要性がある。日々どのようなことに注意しながら意識を高めていくのか、職員へ意識調査アンケートを実施し取り組んだ過程と今後の課題を報告する。
4 7-4-4	いろんなこと報告書から学べたこと ～1年間の分析と課題の考察～	本司 雅貴	ケアホーム西大井こうほうえん	令和3年10月から、令和4年9月までの1年間(209件)の分析をおこなう。発生種類として最も多くを占める転倒・転落(113件 約54%)についての分析を深めた。昨年より開始しているバーサル・インテックスによるADL評価情報の推移を加えて、転倒・転落の予見や予防についての課題を考察した。